

社会学 × 工学
農学 × 経営学

令和6年度
弘前大学大学院
地域共創科学研究科

Graduate School of Sustainable Community Studies 2024

地域リノベーション専攻

産業創成科学専攻



JR弘前駅からのアクセス

※道路状況により所要時間が変わりますのでご注意ください。

- (1) 徒歩：約20分
- (2) バス：約15分(駅前3番のりば乗車、弘前大学前下車)
- (3) タクシー：約5分



国立大学法人
弘前大学

〒036-8560 青森県弘前市文京町1番地
TEL.0172-36-2111(代表)

人文・地域研究科教務グループ TEL.0172-39-3960
メールアドレス jm3960@hirosaki-u.ac.jp

弘前大学ホームページ
<https://www.hirosaki-u.ac.jp/>



弘前大学入試課ホームページ
<https://nyushi.hirosaki-u.ac.jp/>



HIROSAKI UNIVERSITY

研究科長メッセージ



弘前大学大学院
地域共創科学研究科長
片岡 俊一

日本の地域社会は人口減少、少子高齢化、若者の域外流出、労働力不足など多くの社会問題に直面しています。地域社会をいかに力強く持続させていくかが大きな課題となっています。

地域共創科学研究科は、このような地域の課題に取り組むべく、令和2年4月に誕生した新しい研究科です。取り組む観点として「地域を守る」、「地域から攻める」を挙げました。地域リノベーション専攻は、地域を守るうえで重要な社会学と工学を軸に、産業創成科学専攻は、地域から攻めるうえで重要な経営学と農学を軸に、高度な専門性と俯瞰性を兼ね備えた人材を育成します。

私たちは「共創」という言葉に、ふたつの意味を込めました。ひとつは文理共創です。地域共創科学研究科では、文系と理系の大学院生が、それぞれの専門性を意識しながら、協力して課題に取り組み、新しい価値の創造を目指します。これは、ひとりの人間のなかに文系と理系の素養を融合させようとする文理融合とは異なる考え方です。私たちは、さまざまな分野の専門家が、刺激し合い協力しあうことを重視しました。なぜならば、複合的な地域の課題は、ひとりの超人によって解決できるものではなく、さまざまな専門分野の力を結集し、多角的に取り組むことによってしか解決できないからです。

ふたつ目は域学共創です。大学院生や大学教員が地域の専門家等と共に、地域の現場が抱える課題を理解し、互いの専門知や実践知を尊重しながら新たな価値の創造を目指します。地域には多様な人々が暮らしており、地域課題を解決するには、多くのステークホルダーの意見を取り入れたり、対話を重ねたりする必要があります。また行政関係者や企業家、地域のNPOや専門家との協働も欠かせません。

皆さんが、地域共創科学研究科で専門性と俯瞰性を鍛え、異分野の専門家や地域の実践者と共創すれば、地域社会の未来は必ず拓かれると確信しています。

INDEX

研究科長メッセージ	1
理念・専攻・3つのポリシー	2
地域リノベーション専攻	4
産業創成科学専攻	6
研究環境、社会人支援制度	8
大学院で学ぶために必要となる主な経費、学費・奨学制度	9
入学試験	10
新入生の声	11
在学生の声	12
研究紹介	14
修了生の声	16
就職支援、進路状況	17

地域共創科学研究科

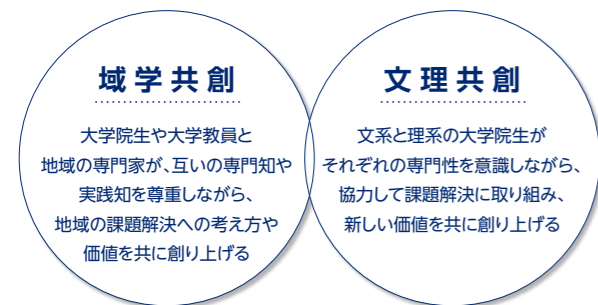
Graduate School of Sustainable Community Studies

人口減少が進む日本の地方では、コミュニティの維持や産業の発展が困難な状況にあります。地域共創科学研究科は、この現状を打破するために、大学の専門的な知識と地域社会が持つ実践的な知識を交差させ、新しい価値を共に創造することを「地域共創」と位置づけ、地域共創を科学する研究科を目指します。

理念

地域共創科学研究科における“共創”

それぞれに研究分野を持つ学生が、互いの専門性を尊重し合い、新たな価値を創出すること。



専攻

地域リノベーション専攻

社会学と工学を中心に、地域づくり・防災・自然エネルギーの活用などの専門性を高めつつ、地域の専門家とともに「地域を守る」方法を構想します。

産業創成科学専攻

農学と経営学を中心に、農水産物の高付加価値化や商品流通などの専門性を高めつつ、地域の専門家とともに「地域から攻める」方法を構想します。

3つのポリシー

地域共創科学研究科

アドミッション・ポリシー (入学者受入れの方針)

1. 教育理念・目標

本研究科では、社会科学・工学・農学等の学士課程における修学をさらに高度化し、専門性と研究領域の垣根を越えた俯瞰性を兼ね備えた高い能力を有する“地域社会の未来を切り拓くフロントランナー”を育成する。

2. 求める学生像

学士課程等で修得してきた分野の基礎的な知識のほか、地域の特性や課題を理解しながら、異分野にも興味関心を持ち、課題解決等に向け実践的に取り組む意欲と行動力のある者。

カリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施の方針)

1. 域学共創に必要な基礎スキルの修得

スキル科目 共創の基盤となる、エビデンスに基づいた地域社会の把握や、知的財産を活用した価値創出を学修する。

2. 専門性と俯瞰性を修得

専攻科目 共創の基盤となる専門性と俯瞰性を身に付けるため、異分野にまたがる専攻科目を設定。

3. 域学共創・文理共創に資する能力の修得

地域共創科目 異分野の専門家からなるチームが協働することの重要性を理解し、協働による地域社会の機能維持や産業発展に資する計画を立案し、実行することで新たな価値を創造(共創)する力を身に付ける。

ディプロマ・ポリシー (卒業認定・学位授与の方針)

■ 地域社会の未来について、専門的・俯瞰的知識を用いて、より良い在り方を構想できる力の修得

■ 地域の課題解決のために、さまざまな分野の構成員からなるチームを自ら組織し、フロントランナーとして先頭立って運営できる力の修得

■ 地域社会の機能を持続的に維持したり、地域社会の礎となる産業を発展させたりする計画を立案し、粘り強く実施することで新たな価値を創造(共創)できる力の修得

地域リノベーション専攻

アドミッション・ポリシー (入学者受入れの方針)

- 地域の特性や潜在的な資源等を深く理解し、地域を支える機能の維持や再生に必要な(社会学または工学などの)基礎的な知識を身につけている人
- 自らの専門に留まらず、異分野にも興味関心を持ち、異分野の専門家と一緒に地域の未来を構想し、その実現にむけて実践的に取り組む意欲と行動力のある人
- 地域社会の機能を維持し再生するために、地域の専門家や多様なステークホルダーと協働しながら、組織的に課題を解決する意欲のある人

カリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施の方針)

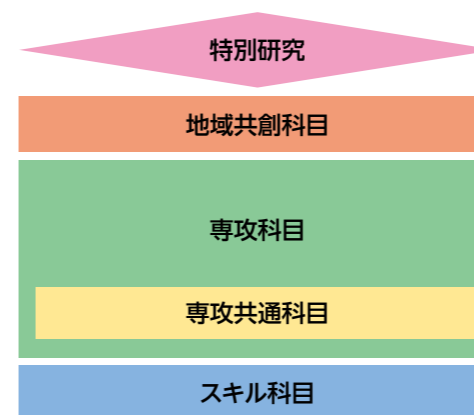
- 地域の特性や潜在する資源を活用し、地域社会の機能を維持し再生する方策を構想できる力を育成するために、専攻科目として社会学や工学などの異分野にまたがる授業科目群を置きます。
- 異なる分野の研究者や地域の専門家と共創することの重要性を理解し、自らの専門性を位置づけることができるように、専攻共通科目として「地域リノベーション特論」を置きます。
- 地域を支える機能を維持し再生するために立案した政策や計画を多面的に評価できるように「政策・事業評価演習」を置きます。
- 持続可能な地域の未来を構想し、その実現に必要な政策や計画を論理的・体系的に考える能力を育成するために、修士論文の作成を目指した特別研究を置きます。

ディプロマ・ポリシー (卒業認定・学位授与の方針)

- 社会学や工学などの専門的・俯瞰的知識を用いて地域の特性や潜在する資源を的確に把握し、持続可能な社会へと機能転換する方策を意欲的に構想できる力を身に付けていること。
- 持続可能な地域社会を共創によって実現するために、自らの専門と異なる分野の研究者や地域の専門家を含めた体制を構築し、フロントランナーとして先導的に運営できる力を身に付けていること。
- 多様なステークホルダーの意見などを総合しながら、地域に密着した政策や計画を立案することで新たな価値を創造(共創)できる力と、その効果を多面的に評価できる力を身に付けていること。

カリキュラムの特徴

本研究科では、社会科学・工学・農学の科目を幅広く学びながら専門性と俯瞰性を高め、地域共創を先導する人材に必要な資質や能力を身に付けるため、「スキル科目」、「地域共創科目」、「専攻科目」、「特別研究」の4つの科目区分を設定しています。



修了要件

科目区分	単位数	要件
◆スキル科目	2単位	必修2科目2単位
◇地域共創科目	4単位	必修2科目4単位
◇専攻科目	16単位	必修2科目(専攻共通科目)4単位、 選択必修12単位
◆特別研究	8単位	選択必修4科目8単位
計	30単位	

産業創成科学専攻

アドミッション・ポリシー (入学者受入れの方針)

- 地域の課題を深く理解し、課題を解決するために必要な(農水産学または経営学などの)基礎的な知識を身につけている人
- 自らの専門に留まらず、異分野にも興味関心を持ち、異分野の専門家と一緒に課題解決に向けて科学的に研究し、実践的に取り組む意欲と行動力のある人
- 地域産業の発展のために、域内だけで完結することなく、域外との連携も視野に入れた外向き志向で地域課題を解決する意欲のある人

カリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施の方針)

- 地域産業の課題を十分に理解し、その解決のために必要となる専門的な知識を修得させるために専攻科目として農水産学や経営学などの異分野にまたがる授業科目群を置きます。
- 地域の産業特性と課題に対して、自らの専門性を位置づけることができるように、専攻科目として「地域産業創成特論」を置きます。
- 農水産学や経営学など各々の専門性による付加価値、さらにはそれらの共創による付加価値を生み出すための構想力やマネジメント力を修得させるために「共創価値創出演習」を置きます。
- また、地域産業の課題を探究し、課題解決にむけたプランを科学的・論理的・体系的に考え、実践し得る能力を育成するために、修士論文の作成を目指した特別研究を置きます。

ディプロマ・ポリシー (卒業認定・学位授与の方針)

- 農水産学や経営学などの専門的・俯瞰的知識を用いて、地域産業の特性や課題を的確に把握し、地域社会を維持・発展させるようなローカルにおける生業(なりわい)を構想する力を身に付けていること。
- その生業をローカルからグローバルに展開し、地域の価値を高め、地域経済を牽引する産業を構想できる力を身に付けていること。
- 各々の専門性を活かしつつ、異分野の専門家との共創によって地域の価値を高める新しい知を生み出すための共創価値を創出する力を身に付けていること。
- 科学的思考に基づいた研究力を基盤とし、地域資源を活用した商品を開発する力、マーケット志向による企画を提案する力、さまざまな分野の専門家による共創状態をフロントランナーとしてマネジメントする力を身に付けていること。

地域リノベーション専攻



■入学定員

15名

■研究領域・授与する学位

研究領域	学位
コミュニティデザイン	修士(地域共創社会学)
レジリエンステクノロジー	修士(地域共創工学)

■人材育成

『地域を守る』 高度専門職業人の養成

社会科学・工学等の学士課程における修学をさらに高度化し、専門性と俯瞰性を兼ね備え、異分野の専門家や地域の専門家と協働し、「地域を守る」という観点から、新たな価値を創造(共創)できる高い能力を有する“地域社会の未来を切り拓くフロントランナー”を育成します。

■想定している進路

- ・ 国の機関
- ・ 地方自治体(行政職・技術職)
- ・ その他NPO団体
- ・ コンサルタント業
- ・ シンクタンク
- ・ 地域貢献型企業
- ・ 地域密着型企業
- ・ 電気/ガス/熱供給/水道業
- ・ 建設業
- ・ 保険業
- ・ エネルギー関連業 など

■教育カリキュラム

地域共創科目・スキル科目

地域の課題を把握する基礎的な手法や、地域の知的財産を管理する手法を学ぶことができます。また、地域社会の課題を解決する先進的な事例研究の成果を踏まえながら、異なる専門分野の学生が協働しながら、創造力を発揮する実践的な学習を進めて、総合的に物事を考え、実行する力を身に付けます。

◎授業科目

〈地域共創科目〉

必修科目

- ・ 地域共創特論
- ・ 地域共創演習

選択科目

- ・ インターンシップA
- ・ インターンシップB

〈スキル科目〉

必修科目

- ・ 地域データ解析特論
- ・ 知的財産管理特論

専攻科目

専門性を活かしながら、異なる研究分野と共創する特論や演習を履修し、自らの専門性を位置づけ、異分野の専門家と協働する素地を得ることができます。また、修士論文の作成を目指した特別研究を組み合わせることで、地域が必要とする高度専門職業人の能力を身に付けます。

◎授業科目

必修科目

- ・ 地域リノベーション特論
- ・ 政策・事業評価演習

選択必修科目

- ・ 地域調査演習
- ・ 地域研究特論
- ・ 生態人類学特論
- ・ グループ・ダイナミクス特論
- ・ 社会心理学演習
- ・ メディア社会学特論
- ・ 家族社会学特論
- ・ 都市社会学特論
- ・ 地域社会学演習
- ・ 応用社会学特論
- ・ 都市・農村計画特論
- ・ 社会教育特論
- ・ 人文地理学特論
- ・ 社会教育演習
- ・ コミュニティデザイン演習
- ・ 地形環境学特論
- ・ 防災地質学特論
- ・ 環境影響評価特論
- ・ 地理情報解析特論
- ・ 生物多様性保全特論
- ・ 地盤震動工学特論
- ・ 防災構造工学特論
- ・ バイオマスエネルギー特論
- ・ エネルギー気象学特論
- ・ 風力エネルギー工学特論
- ・ 複合災害を考える
- ・ 電磁エネルギー工学特論
- ・ 地形プロセス学特論
- ・ 地殻変動・測地学特論
- ・ レジリエンス科学特別演習

特別研究

地域共創科目やスキル科目、専攻科目を交えて体系的に修得した専門知と実践知を踏まえ、修士論文の作成を目指します。

◎授業科目

選択必修科目

- ・ コミュニティデザイン特別研究IA・IB
- ・ コミュニティデザイン特別研究IIA・IIB
- ・ レジリエンステクノロジー特別研究IA・IB
- ・ レジリエンステクノロジー特別研究IIA・IIB

■修了要件

地域共創科目から4単位以上、スキル科目から2単位、専攻科目から16単位以上修得し、特別研究8単位を含む合計30単位以上修得するとともに、学位論文の審査及び最終試験に合格することを修了要件とします。

■取得可能な資格

- ・ 専門社会調査士

■履修モデル

〈研究テーマ例〉自然エネルギーの導入による地域経営の自立化			〈学位〉修士(地域共創社会学)
科目区分	1年次		2年次
地域共創科目	インターンシップA	インターンシップB 地域共創特論	地域共創演習
スキル科目	地域データ解析特論	知的財産管理特論	
専攻科目	地域リノベーション特論 政策・事業評価演習 地域調査演習 地域研究特論	バイオマスエネルギー特論 応用社会学特論 社会教育演習 コミュニティデザイン演習	地域協同組合論
特別研究	コミュニティデザイン特別研究IA・IB		コミュニティデザイン特別研究IIA・IIB

〈研究テーマ例〉産学連携を通じた地域防災の推進			〈学位〉修士(地域共創工学)
科目区分	1年次		2年次
地域共創科目	インターンシップA	地域共創特論	地域共創演習
スキル科目	地域データ解析特論	知的財産管理特論	
専攻科目	地域リノベーション特論 政策・事業評価演習 グループ・ダイナミクス特論 防災地質学特論	地盤震動工学特論 防災構造工学特論	レジリエンス科学特別演習 産学連携学特論
特別研究	レジリエンステクノロジー特別研究IA・IB		レジリエンステクノロジー特別研究IIA・IIB

■教員紹介

研究領域	氏名	研究指導分野	氏名	研究指導分野
コミュニティデザイン	曾 我 亨	生態人類学, 地域研究	土 井 良 浩	地域計画学
	羽 淵 一 代	メディア文化論, 文化社会学	平 井 太 郎	社会学
	増 山 篤	地理情報システム	古 村 健太郎	心理学
	高 瀬 雅 弘	社会学	花 田 真 一	政策の定量評価
	日比野 愛子	社会心理学	松 井 步	人文地理学
	近 藤 史	地域研究, 環境社会学	泉 直 亮	生態人類学, 地域研究
	白 石 壮一郎	地域研究, 社会学	越 村 康 英	社会教育学
レジリエンステクノロジー	李 秀 真	社会学		
	小 岩 直 人	自然地理学	島 田 照 久	エネルギー気象学
	長 南 幸 安	化学	中 村 剛 之	動物分類学
	片 岡 俊 一	地震工学	久保田 健	電気工学, 流体機械工学, 風工学
	梅 田 浩 司	応用地質学	若 狭 幸	自然地理学, 地球熱利用総合工学
	官 国 清	バイオマスと材料化学	道 家 涼 介	測地学, 変動地形学, 地震地質学
	上原子 晶 久	土木建築工学		

教員紹介の詳細はこちらからご覧いただけます。

<https://scs.hirosaki-u.ac.jp/professor/>



産業創成科学専攻



■入学定員

15名

■研究領域・授与する学位

研究領域	学位
食産業イノベーション	修士(地域共創農学)
グローバルビジネス	修士(地域共創経営学)

■人材育成

『地域から攻める』 高度専門職業人の養成

社会科学・農学等の学士課程における修学をさらに高度化し、専門性と俯瞰性を兼ね備え、異分野の専門家や地域の専門家と協働し、「地域から攻める」という観点から、新たな価値を創造(共創)できる高い能力を有する“地域社会の未来を切り拓くフロントランナー”を育成します。

■想定している進路

- ・ 製造業(食品関係)
- ・ 複合サービス業(農協、観光関係等)
- ・ 国際流通小売業
- ・ 商社
- ・ コンサルタント業
- ・ ソーシャルビジネス
- ・ 起業 など

■教育カリキュラム

地域共創科目・スキル科目

地域の課題を把握する基礎的な手法や、地域の知的財産を管理する手法を学ぶことができます。また、地域社会の課題を解決する先進的な事例研究の成果を踏まえながら、異なる専門分野の学生が協働しながら、創造力を発揮する実践的な学習を進めて、総合的に物事を考え、実行する力を身に付けます。

○授業科目

〈地域共創科目〉

- 必修科目**
- ・ 地域共創特論
 - ・ 地域共創演習

選択科目

- ・ インターンシップA
- ・ インターンシップB

〈スキル科目〉

- 必修科目**
- ・ 地域データ解析特論
 - ・ 知的財産管理特論

■専攻科目

専門性を活かしながら、異なる研究分野と共創する特論や演習を履修し、自らの専門性を位置づけ、異分野の専門家と協働する素地を得ることができます。また、修士論文の作成を目指した特別研究を組み合わせることで、地域が必要とする高度専門職業人の能力を身に付けます。

○授業科目

必修科目

- ・ 地域産業創成特論
- ・ 共創価値創出演習

選択必修科目

- ・ 食品栄養科学特論
- ・ 食品工学特論
- ・ 食品機能生理学特論
- ・ 園芸植物機能学特論
- ・ 地域産物活性化特論
- ・ 食品副産物資源の飼料利用特論
- ・ 植物遺伝資源栽培特論
- ・ 非破壊分析特論
- ・ 食料科学特論
- ・ 食品利用科学特論
- ・ ベンチャービジネス特論
- ・ コミュニティビジネス特論
- ・ グローバルビジネス特論
- ・ プロダクトデザイン特論
- ・ 地域イノベーション特論
- ・ 経営情報分析特論
- ・ 中小企業特論
- ・ 農産物輸出ビジネス特論
- ・ 国際食品マーケティング特論
- ・ 食品循環流通学特論
- ・ 地域協同組合論
- ・ 国際フードビジネス特論
- ・ 国際農業開発特論
- ・ 産学連携学特論
- ・ 会計応用分析特論
- ・ 食サイエンス特別演習

■特別研究

地域共創科目やスキル科目、専攻科目を交えて体系的に修得した専門知と実践知を踏まえ、修士論文の作成を目指します。

○授業科目

選択必修科目

- ・ 食産業イノベーション特別研究IA・IB
- ・ 食産業イノベーション特別研究IIA・IIB
- ・ グローバルビジネス特別研究IA・IB
- ・ グローバルビジネス特別研究IIA・IIB

■修了要件

地域共創科目から4単位以上、スキル科目から2単位、専攻科目から16単位以上修得し、特別研究8単位を含む合計30単位以上修得するとともに、学位論文の審査及び最終試験に合格することを修了要件とします。

■取得可能な資格

- ・ 食の6次産業化プロデューサー LEVEL3 (国家戦略・プロフェッショナル検定)

■履修モデル

〈研究テーマ例〉 地域の特性にあわせた機能性食品の開発		〈学位〉 修士(地域共創農学)
科目区分	1年次	2年次
地域共創科目	インターンシップA 地域共創特論	地域共創演習
スキル科目	地域データ解析特論 知的財産管理特論	
専攻科目	地域産業創成特論 共創価値創出演習 ベンチャービジネス特論 食品栄養科学特論	地域産物活性化特論 食料科学特論 食サイエンス特別演習 地域研究特論
特別研究	食産業イノベーション特別研究IA・IB	食産業イノベーション特別研究IIA・IIB

〈研究テーマ例〉 加工食品の高付加価値を実現するビジネスモデル研究		〈学位〉 修士(地域共創経営学)
科目区分	1年次	2年次
地域共創科目	インターンシップA 地域共創特論	地域共創演習
スキル科目	地域データ解析特論 知的財産管理特論	
専攻科目	地域産業創成特論 共創価値創出演習 ベンチャービジネス特論 農産物輸出ビジネス特論	グローバルビジネス特論 国際食品マーケティング特論 地域産物活性化特論 プロダクトデザイン特論 社会心理学演習
特別研究	グローバルビジネス特別研究IA・IB	グローバルビジネス特別研究IIA・IIB

■教員紹介

研究領域	氏名	研究指導分野	氏名	研究指導分野
食産業 イノベーション	安川 あけみ	農芸化学, 染色, 家政	津田 治敏	畜産物利用学
	岩井 邦久	食品機能科学	前多 隼人	食品科学
	佐藤 之紀	食品物性機能制御学	島田 透	化学
	中島 晶	食品安全生理学	房家 琛	畜産学
	中井 雄治	農芸化学	吉田 渉	水産学
	勝川 健三	花卉園芸学	林田 大志	農学
	君塚 道史	食品工学	山元 涼子	農芸化学
	西塚 誠	食品化学物質安全学, 疾患生物学	谷本 憂太郎	食品利用科学
グローバル ビジネス	樋口 智之	農芸化学		
	大橋 忠宏	交通政策, 地域科学	大倉 邦夫	企業社会論
	森 樹男	国際経営論	佐藤 光輝	プロダクトデザイン
	黄 孝春	農産物貿易	成田 拓未	国際食品マーケティング論
	泉谷 眞実	食品循環流通経済学	柳 京熙	農業経済学
	石塚 哉史	食料経済学	佐藤 孝宏	国際農業開発論
	佐々木 純一郎	地域ブランド論	石本 雄大	国際フードビジネス論
内山大史	付加価値創造科学	高野 涼	農林社会学, 森林政策学	
高島 克史	経営戦略論, 起業論			

教員紹介の詳細はこちらからご覧いただけます。
<https://scs.hirosaki-u.ac.jp/professor/>



研究環境

〈大学院生室など〉

大学院生が利用できる院生室として、グループワークやディスカッションなどでの活用を目的とした「コ・ワーキング(共創)」型1室と、授業の準備や論文執筆、学会資料の作成など静かな環境で自修できる「スタディ(自修)」型2室の、合計3室あります。また、実験室や演習室など研究に必要な環境が完全に整っています。



〈研究支援制度〉

大学院生の研究を支援するために、院生室にコピー機を設置しており、研究のために必要な文献の複写等で利用することができます。

〈相談員制度〉

大学院生の疑問や悩みに対応するために相談員制度があります。相談員は、相談者のプライバシーが保たれるよう、また、不利益が生じないように配慮しつつ、関係各所と連絡・協議して、問題解決にあたります。

授業科目、研究指導、成績評価に関する疑問・質問・苦情、メンタルヘルスやハラスメントに関する悩み、その他研究生生活全般に関する事柄について相談を受け付けています(相談者のあらゆる不安に応えられるよう、研究科だけでなく全学の相談窓口も設けています)。

また、専門の学生相談員・ハラスメント相談員を設け、授業や生活に関する相談のほか、セクシャル・ハラスメント、アカデミック・ハラスメント、パワー・ハラスメントなどに関する苦情を受け付けています。

深刻・重大な問題が生じた場合も、本研究科または弘前大学が責任をもって対応します。

社会人支援制度

〈教育方法の特例制度〉

社会人学生への特例として、正規の授業時間帯以外の時間帯等に授業または研究指導を受けることが可能な場合があります。希望者は、担当教員と事前に相談してください。

〈長期履修制度〉

2年分の授業料で、最長4年間かけて研究に取り組むことができます

社会人の方の就学を容易にするとともに、経済的負担等の軽減を図るために長期履修制度を実施しています。この制度の適用対象者は、職業を有している者(自営業、臨時雇用、非常勤等を含む)で、認定された方は2年分の授業料で最長4年間かけて研究に取り組むことができます。

■通常の学費(2年間在籍)

入学料	282,000円
授業料	535,800円(年額)×2年間

■長期履修制度(4年間在籍)

入学料	282,000円
授業料	267,900円(年額)×4年間

大学院で学ぶために必要となる主な経費

◎検定料 ◎入学料 ◎授業料 ※改定となる場合があります

検定料	30,000円	入学料	282,000円	授業料(年額)	535,800円
-----	---------	-----	----------	---------	----------

※入学料に改定があった場合は、改定後の入学料が適用されます。
※授業料は、原則として前学期・後学期に分割し、それぞれ267,900円を5月と10月に徴収します。
※授業料に改定があった場合は、改定後の授業料が適用されます。

◎修学・研究活動に必要な保険の加入料

安心して修学及び研究活動ができるように、学生教育研究災害傷害保険(略称「学研災」)及び学研災付帯賠償責任保険(略称「学研賠」)への加入を推奨しています。

■修士課程(2年)

学研災	1,750円	学研賠	680円
-----	--------	-----	------

学費・奨学制度

研究・勉学への意欲がありながら、経済的な理由によって本学大学院での修学が困難な学生や、優秀な学業成績・研究成果を持つ学生に学費等を支援するために、以下の奨学制度があります。

〈日本学生支援機構奨学金(貸与型)〉

奨学金の貸与月額は次のとおりです。

【第一種(無利子)】

月額50,000円または88,000円

※「特に優れた業績による返還免除」について

大学院在学中に優れた業績を挙げた場合、大学院で貸与を受けた第一種奨学金の全額又は一部の返還が免除されることがあります。

【第二種(有利子)】

月額/50,000円、80,000円、100,000円、130,000円、150,000円から選択

〈岩谷元彰弘前大学育英基金(奨学金給付事業)〉

成績優秀でかつ経済的理由により修学が困難な学生に対して、一人20万円の奨学金を給付します。

※上記支援の対象者は選考により決定されます。なお、詳細については必ず、下記担当にお問合せください。

これ以外にも様々な奨学制度があります。詳細はお問い合わせください。

■入学料・授業料免除等の確認はこちらから

[弘前大学ホームページ](#)

[学生生活](#)

[入学料・授業料免除等](#)



学務部学生課生活支援グループ経済支援担当 TEL.0172-39-3117

入学試験

2025年度 入試日程(予定)

〈第1期募集〉 ●出願期間 2024年7月8日(月)～7月12日(金) ●試験実施日 2024年8月19日(月) ●合格発表日 2024年8月29日(木)	〈第2期募集〉 ●出願期間 2024年12月2日(月)～12月6日(金) ●試験実施日 2025年2月8日(土) ●合格発表日 2025年2月13日(木)
---	---

弘前大学大学院地域共創科学研究科(修士課程)の入学者の一般選抜は、「第1期」と「第2期」で実施する予定です。いずれにおいても、試験出願前に入学後の指導予定教員と研究に関する事前協議を行ってください。

2025年度 募集人員

専攻	研究領域	募集人員
地域リノベーション専攻	コミュニティデザイン	15名 (研究領域毎に半数程度)
	レジリエンステクノロジー	
産業創成科学専攻	食産業イノベーション	15名 (研究領域毎に半数程度)
	グローバルビジネス	

■募集要項請求・問い合わせ先

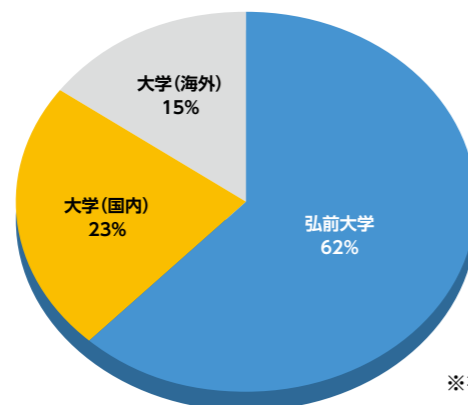
請求先	弘前大学 学務部 入試課
請求先住所	〒036-8560 青森県弘前市大字文京町1番地
電話番号	0172-39-3973 / 0172-39-3193

弘前大学入試課ホームページ
<https://nyushi.hirosaki-u.ac.jp/>

請求方法等、詳細をご確認ください



令和5年度入学者(出身大学別)



※社会人学生3名、外国人留学生3名

新入生の声

理系の知識をまちづくりに活かす

地域リノベーション専攻 コミュニティデザイン領域 新1年生

しばた あや
柴田 絢さん

北海道出身 出身
 弘前大学 理工学部 卒業



2018年に発生した北海道胆振東部地震をきっかけに防災について興味を持ち、大学では理系の側面から防災を学びました。一方、まちづくりに関心があったことから2年生の時に福島県富岡町で行われたインターンシップに参加しました。3週間現地に滞在しながら、津波の影響を受けた駅前更地の活用法を見出す内容だったのですが、「この地域は将来の日本や世界が抱える社会的な課題を既に抱えている地域かもしれない」とお聞きし、災害後のまちづくりについて興味を惹かれました。学部では災害のメカニズムなどから防災を考える理工学的な学びが多く、広い意味で地域を守るにはまちづくり的な視点も必要だと思い進学を決意。本来は卒業したらすぐに働きたいと思っていたので、防災とまちづくりに触れたその経験は良いターニングポイントになりました。また、学内進学の場合は入学金免除などの金銭的な支援が充実していることも、大きな決め手になりました。

正直なところ高校時代からずっと理系の勉強ばかりしてきたので、学ぶ分野が変わることに不安もあります。大学院の2年間という限られた時間で研究を進めなければならないので、進学を決意してからは社会学系の授業を多めに履修して準備をしています。今までは数値として1つの答えが導かれる分野を学んできましたが、まちづくりを研究するとなれば相手は人です。調査のための聞き方ひとつで、与える印象や相手の応えが変わってしまう数値化できない世界。それが難しさであり面白さだと想像しています。

私の目標は、「被災地」という言葉を死語にする事です。その為には様々な分野のプロが協力する事が不可欠だと思います。しかし、どんなに外部の意見が優れていても、その土地に住む人が動かなければ何も変わりません。学部時代に身につけてきた災害の正しい知識を活かしつつ、様々な人を繋ぎ、地域の火種になるアイデアを出せる人材になりたいです。

がん細胞を止める化合物を発見するために

産業創成科学専攻 食産業イノベーション領域 新1年生

ささき あゆみ
佐々木 歩海さん

青森県出身
 弘前大学 理工学部 卒業



学部時代からがん細胞を用いた研究に取り組んでいます。がんは日本人の死因の第一位であり、多くの人の命を奪っている疾病です。転移の原因となる現象があるのですが、その現象を止めるための新たな化合物を見つけるのが目標で、発見したら創薬に役立てられるかもしれません。すぐに世間のためになる研究ではないかもしれませんが、少しでも医療の発展に繋がればと思いつながりながら研究に励んでいます。実験はうまくいかない時のほうが多く、3年生の後半は思うように結果が出なくて焦っていました。ここ最近は納得できる結果を残せており、壁を乗り越えられるようになってきました。回数を重ねる度に洗練されていく感覚があって、実験の内容や結果から自分の成長を実感しています。やりがいのあるこの研究を続けたいと思ったので大学院への進学を決めました。

食産業イノベーション領域では地域が抱える課題の把握や、それを解決するための専門的な知識の獲得、さらに自分の専門分野の知見を深められると考えていて、学部生の頃は経験できなかった勉強や人に出会えるのを楽しみにしています。本研究科は域学・文理共創という考えのもと、シームレスに他の分野も学べる部分が魅力で、自身の専門と異なる分野の方との連携や、幅広い知識と視野を養い、多角的に物事と向き合うことができる人材になりたいと考えています。大学院での学びは専門性が増して、より実践的なものになっていきます。学部生のうちから自身の専門分野の基礎的な部分を修学しておく、大学院での学びがより意味のあるものになるのではないのでしょうか。

卒業後は、取り組んでいる研究と近い分野の仕事に就きたいと考えています。食品や製薬会社の開発や品質管理など、人の健康に直結している分野は責任感とやりがいのある職業だと思っています。大学院を出る頃にはきっと今よりも多くの道が開けていると思うので、将来を創造しながら学びを楽しみたいです。



地域リノベーション専攻
コミュニティデザイン領域
1年

かねた みみ
金田 未美さん

青森県 出身
東洋大学 社会学部 卒業

地域と個人を大切に作る大学で 心理学の視点から社会問題と向き合う

社会心理学には「社会的影響」という概念があります。これは他者の存在や働きかけによって認知や行動が変わることを指すもので、他者から操作・支配をされて不利益をもたらす負の側面を持ち合わせています。家庭内暴力や詐欺などもそのひとつで、当事者だけでは解決が困難な問題です。私は大学時代からこうした脅威を減らすことに興味を持って学んできたのですが、誰もが尊重される社会の構築に貢献するためには、より専門的な知識を身につける必要があると感じて当研究科に進みました。

今はフェイクニュースやフィッシング詐欺などの日常の中に潜む問題に対し、情報の受け手が誤った情報を発信する側のようなイメージを持つのかという点に着目し、それがどのような影響を及ぼすのかを研究しています。社会のあらゆる要因に目を向け、仮説と検証を重ねて数字に表しづらい事柄を具体化させる過程は面白くもあり、近年取り沙汰されている諸問題の解決への可能性を感じる部分に研究のやりがいを感じています。人文・社会科学の研究では、目に見えないものの、我々の周りに確かに存在する現象から「価値」を見出す技術や工夫が求められます。当研究科には、そのために必要な社会調査法やテキストマイニングなどを学ぶ機会が用意されており、私はこうした講義がきっかけで、データから新たな価値を見出すことの面白さと重要性を実感し、将来は情報資産に関わる職に就きたいと考えるようになりました。

私が通っていた大学は規模が大きかったので、先生と一対一で話す機会は比較的限られていました。本学はフィールドワークや地域の人たちとの交流の場も設けられ、人や地域との繋がりを重要視しています。教員との距離感も近く、疑問が生じた際に気兼ねなく議論できる環境が醸成されており、個人個人を大切にしてくれる大学だと感じています。今までは興味を持ったことに対して引込み思案でなかなか手を出せなかったのですが、大学院に進んでからは研究に使えるような新しいツールに触れてみたり、専門外の学問を新たに学んでみたりと心が動いたらすぐに行動できるようになりました。



地域リノベーション専攻
レジリエンステクノロジー領域
1年

なるみ けいすけ
鳴海 圭佑さん

青森県 出身
弘前医療福祉大学短期大学部 卒業

教える側の立場を経験して芽生えた課題 防災から身を守るには地域の協力が不可欠

私は短期大学の救急救命学科で教員として働いています。救急救命士を目指す学生達を指導する傍らで、4年前に防災士の資格を取得したのですが、その頃から救急と防災には地域の役割が重要であると考えはじめ、地域づくりへの関心が高まっていた矢先に本研究科の存在を知りました。

大きな災害が起こると消防や警察、市役所などの公助の手が届かない場合があります。自身を守るような対策は必要不可欠で、有事の際には地域住民が相互に助け合う自助・共助が効果的です。それらをふまえて現在は災害意識の差異について研究を進めています。地図情報システムを用いて各消防署等の情報をハザードマップと照らし合わせ、救助までにかかる時間や被害を算出。そのデータを基に災害警戒区域に住む人に聞き込みをして災害意識の差を調べます。危機意識に差が生じるのは過去に災害が起こってないということが原因のひとつ。三陸の海岸に近いエリアなどは被災経験があるので、地域や消防の人の危機意識が高く避難場所などの有事の行動を共有していますが、別のエリアでは災害意識の低さが浮き彫りになりました。近年起こりうる災害は予想を余裕で超えてくる災害が多いです。住民に現状を伝えることで、調査前とは危機意識が変わってきた手応えも感じています。また、この研究が明らかになれば災害から対応までにかかる時間を算出でき、自ら災害対策を考える人が増えることを期待しています。

最近は救急需要が増加し、睡眠時間を削って働く有資格者は少なくありません。研究を通じて不要な救急出動を減らして救急隊員の負担軽減に繋がることを目指しています。3Kとも思われませんが、救急救命士は大変やりがいのある仕事。現場で活躍する彼らが自分の仕事に自身を持ち、長期にわたって健康に働き続けられる仕組みづくりに貢献するのが私の夢です。社会人との両立は楽ではありませんが、想像を超える発見と刺激を与えてくれる今の道を選んで良かったと感じています。



産業創成科学専攻
食産業イノベーション領域
1年

さとう りさ
佐藤 梨沙さん

青森県 出身
東北女子大学 家政学部 (現:柴田学園大学) 卒業

管理栄養士として専門性をさらに高める 食で地域に貢献できる人材を目指して

子どもの頃から食と健康に興味があり、管理栄養士を取得しました。母校の管理栄養士課程で助手として勤務し、いざ管理栄養士を目指す学生たちをサポートする立場になってみると、自分自身の勉強不足を痛感する場面が何回かぶつかり、「難しいことをわかりやすく伝えるには知識の引き出しを増やす必要がある」と、学び直すことを意識するようになりました。職場には働きながら大学院に通った経験のある先輩がおり、力になってくれたことも進学を決意した理由のひとつです。

現在は食の嗜好性についての研究を行っています。大学時代から関心があった研究を続けてきた分野なのですが、食べ物を自由に選択できる環境において、いつ、何を、どのくらいの量を食べるのかを時間栄養学的視点で調べています。食の嗜好性は生活と健康管理に影響を与えるもの。得られた研究成果を活かしながら、健やかな生活を確立するための食育に役立てたいと考えています。現に県内各地の食に関する講演会や学園祭の参加を通して地域の方に食と健康に関する科学的根拠のある正しい情報を伝えるためには実験などを交えながら、楽しく学んでもらうことが大切だと実感しています。

本研究科では様々な分野の方に会えることができます。今までは栄養について学ぶことだけで凝り固まっていた頭が、学びを深めて多くの意見に触れる経験をしたことで、自分の専門分野を多角的な視点で考えられるようになったと思います。管理栄養士の活躍の場は病院に限らず、学校の栄養教諭や自治体職員など様々です。私自身、実際の現場を経験したことがないので、学び直しをしたことが糸口となって、そういった環境にも身を置いてみたいとも感じるようになりました。日々変化する社会に対応するには常に学ぶ姿勢が大切です。仕事との両立は楽ではありませんが、専門性を高めたいと考えている方は一歩踏み出してみてください。



産業創成科学専攻
グローバルビジネス領域
1年

ちょういつめい
趙 逸明さん

中国 出身
愛知東邦大学 経営学部 卒業

日本のエンタメコンテンツ×地域資源 新たな地域振興の方法を探す

私はエンターテインメントに関連した研究に取り組んでいます。もともと日本の特撮ヒーローが大好きで、幼い頃からよく見ていました。アニメやゲームなど日本のエンターテインメントコンテンツは、私の生まれた中国、そしてアジアや世界でも広く認知されており、「エンタメの先進国で学びたい」という思いで日本へ来ました。学部生時代は別の大学で学んでいたのですが、大学院へ進んでさらに知識を深めたいと日本中の大学を調べていたところ、自分の研究課題とマッチしていた佐藤光輝先生との出会いが弘前大学を選んだ理由です。

本研究科に所属してからは、コンテンツビジネスのブランド拡張と地域振興に関連する研究に取り組んでいます。キャラクターなどを活用した情報発信など、コンテンツ資源はまちづくりにも大いに活かせると考えており、東京都にある祖師谷ウルトラマン商店街に外国人向けの情報発信企画を提案したこともありました。そして弘前も文化や歴史が豊富な魅力的な土地です。しかも太宰治や「ガンダムシリーズ」を手掛けた安彦良和氏など、本学とのゆかりが深いクリエイターもいるので、そういった素材を組み合わせながら大学独自の新たなコンテンツを生み出してみたいと模索中です。また、個人的な活動としては「ヒロダイザープロ」というサークルに所属し、ヒロダイザー」という弘前大学発のヒーローを考案して、学祭やイベントでヒーローショーを行っています。特撮物が好きなメンバーたちと意見を出し合いながらの活動は楽しく、自らの研究とも重なる部分もあってやりがいを感じています。

現在は生まれて初めて地方での生活を送っているのですが、人口は少ないながらも弘前は魅力が詰まった地域です。雪景色を眺めながらストーブの温かさに包まれて読書をするなど、人生で忘れられない経験をしています。いずれはゲーム会社などコンテンツビジネスに関わる企業で働き、日中の両国に貢献できるウルトラマンのような存在になりたいと思っています。



RESEARCH HIGHLIGHTS ①

「プログラム」を定量的に考えることで未来を創造できる



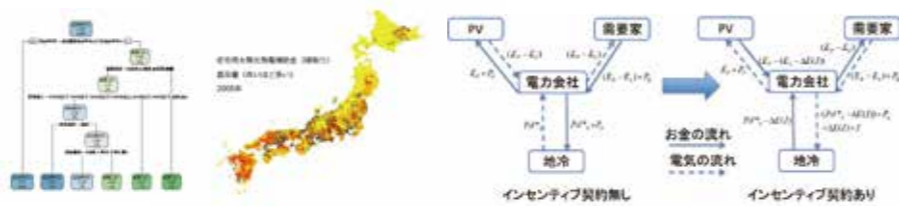
花田 真一

コミュニティデザイン研究領域

(E-mail) shanada@hirosaki-u.ac.jp
 (Website) <https://sites.google.com/site/shinichihanada/>

産業組織論の手法を応用し、様々なプログラムを定量的に考える研究を行っています。プログラムというのは、政府や自治体の政策や企業が行う事業を総称した、社会において他者に働きかける取り組み全般を指します。産業を取り巻く政策や環境、つまりプログラムが変化したときに、組織としての産業がどのように影響を受けるかを調べています。個人の研究では、衰退産業である銭湯の生き残り戦略についてや、新技術である住宅用太陽光発電の普及政策の評価などを行ってきました。

プログラムを定量的に評価する手法はいろいろな分野に応用できます。社会学の先生と地域住民の幸福度に関する研究、労働経済学の先生と大学生や高校生の地元意識と就職の関係の研究、保健学の先生と冬の火災を減らすための高齢者への暖房機器の買い替えに対する働きかけに関する研究など、学際的な研究にも挑戦しています。



RESEARCH HIGHLIGHTS ②

地形の成り立ちを知って地域を守る



若狭 幸

レジリエンステクノロジー研究領域

(E-mail) wakasa@hirosaki-u.ac.jp

地形がいつ、どのようにできたのかを明らかにする研究を行っており、岩石海岸の波食棚や海成段丘ができた過程や、タフォニなどの大小様々な凹凸地形がなぜできたかなどを調べています。そのために宇宙線と地表面が反応して生成・蓄積される核種の濃度を測定し、地表面の露出年代を測り、岩石物性や化学組成、画像解析などから地形プロセスを推定しています。また、地形と地球内部活動の関係(活断層、地熱、温泉など)や地球の熱利用についても研究を進めています。

地形の成り立ちを知ることは、その土地や地域の特性、安全性を知ることであり、防災や政策、計画にも繋がります。これらの研究成果は科学的な知見の蓄積にとどまらず、観光や教育のツールとして地域に役立てられます。また、今後の防災へ役立てられるほか、保存すべき地形や景観の選定、建設物と地形の関係を評価するなど地域を守る活動に役立ちます。



野外調査風景



ドローン調査風景



RESEARCH HIGHLIGHTS ③

光を使った非破壊的な品質保証で地域産物のブランド力の向上を



島田 透

食産業イノベーション研究領域

(E-mail) tshimada@hirosaki-u.ac.jp

特産物などの地域ブランドを構築して価値を高めることは、地域の活性化につながると期待されています。地域産物の付加価値を高め、ブランド力を向上させる方法の一つとして、特産物の機能性成分量の保証や食味の保証があります。

当研究室では特産物の機能性成分量と食味の保証を、非破壊的に行うことを目指し研究を行っており、現在はりんごやカシスなどに含まれる成分の非破壊分析を進めています。品質保証に関わる情報を得るために農産物や食品に光を当て、得られた応答を機械学習などにより丁寧に解析することで、品質保証に必要な情報を得ることを目指しています。農産物や食品には光を当てているだけなので、非破壊で分析が行えるだけでなく、迅速かつ簡便に情報を得ることができます。光を使ったこのような手法は、通常の分析に使われる化学的手法と比べ、環境負荷の軽減にもつながります。



RESEARCH HIGHLIGHTS ④

地域に伝わる食資源を活用するフードビジネス



石本 雄大

グローバルビジネス研究領域

(E-mail) yishimoto0308@hirosaki-u.ac.jp

各地の自然や地域社会のもとで農林水産業や食文化は育まれてきました。地産地消や地域づくりの推進、和食のユネスコ無形文化遺産登録など様々な観点から食文化の注目度は高まっています。そこで私は、地域の食資源を活用するフードビジネスを国際的見地から研究し、受け継がれてきた地域資源の過去と現在を把握して、未来への可能性を検討しています。

例えば、在来作物は各所の自然環境や食習慣にあわせて栽培・加工され、食べられてきました。各地域の農業従事者が最適と判断するものを選び、その過程で固有の特徴を備えた作物が残されてきたのです。こういった地域に根差した食資源に関わる産業の現状と課題を理解し、その活用方策を検討しています。青森県内でも食文化は土地ごとに育まれ多様で、そこに価値があるのではないのでしょうか。身近な物事の価値を見つめる視点は地域の文化を残し、地域を支えるためのヒントになるでしょう。



修了生の声



令和4年度
地域リノベーション専攻 修了

株式会社まちなかキャンパス 勤務
佐藤 綾哉 さん

私は在学中、まちづくりやコミュニティデザインを専攻しており、中でも若者によるまちづくり活動にフォーカスした研究を行っていました。修士論文では若者によるまちづくり助成制度の利用促進をテーマに、地域の学生団体や制度を運営する主体へのヒアリング調査を行い、その結果の分析と考察を行いました。

私は学部生までは異なる分野であるマーケティングを専攻し、大学院から新たな研究分野へ飛び込む形となりましたが、同級生や指導教員の手厚いサポートのおかげで充実した研究生生活を送ることができました。また、様々な専門性を包括的に活かせる研究科ということも手伝って、学部時代に得た知見も活用しながら過ごせた2年間だったと思います。

現在は弘前に残り、まちなかキャンパスという会社に勤めています。弊社ではインターンシップやセミナーなど、学生を対象とした地域教育や人材育成プログラムの企画・運営を行っており、社会人になった今でもまちづくり活動に携わり続けています。実際の現場では幅広い知見を要する場面が多々あるので、大学院で自身の専門以外の分野にも触れることができたのは、大きなアドバンテージだと感じています。

同級生の多くが就職するなかで大学院進学を迷う気持ちは私にもありましたが、大学院でしか得られない経験が間違いなくあると思っています。特に、何かを本気で研究することを通じて培われる「物事を探求する力」は一生の宝物になります。これを読み、ピンときたあなたが地域共創科学研究科にて充実した研究生生活を送ることを願っています。

就職支援

弘前大学教育推進機構キャリアセンターでは、インターンシップ、就職ガイダンス、業界研究会、各種企業説明会、就職相談、求人開拓及び情報収集等、さまざまなキャリア支援を行っています。

■就職・進路相談

専任のキャリアアドバイザーが、年間を通して相談を受け付けています。
相談の対象は大学院生を含む弘前大学の学生全員で、学年の制限はありません。

■求人票等の閲覧

求人検索システム「弘前大学キャリアコミュニティ(キャリアコム)」による求人情報の公開を行っています。
学内外のどこからでも閲覧・検索することができます。

キャリアセンターの利用について

学年・学部を問わず、どなたでも利用できます。

◎利用時間/月曜日～金曜日(祝日・年末年始等を除く)

◎授業期間中/9:15～18:00 ◎休業期間中/9:15～17:00

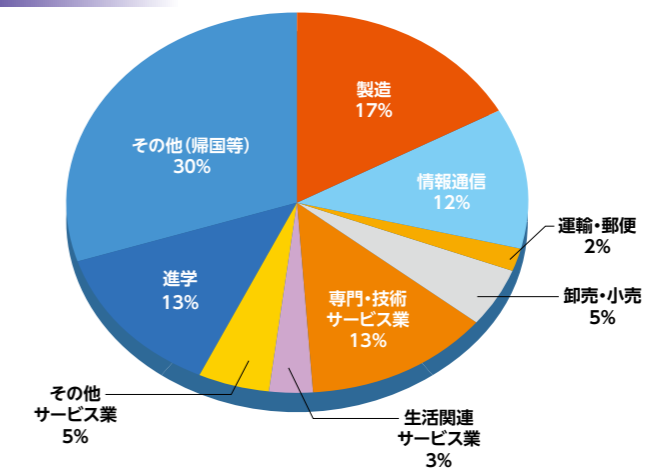
◎場所/総合教育棟1階

◎TEL/0172-39-3129 ◎FAX/0172-39-3131 ◎E-mail/scc@hirosaki-u.ac.jp

◎ホームページURL/https://career.hirosaki-u.ac.jp/



令和3・4年度修了生進路状況



令和3年度
産業創成科学専攻 修了

株式会社帝国データバンク
営業企画部マーケティング課 勤務
手塚 大貴 さん

大学院では日本産野菜の輸出入に関する研究に取り組みました。輸入恒常下での海外産地との競合、少子高齢化に伴う国内市場の縮小における産地の取組に焦点をあてた事例調査を行いました。進学した2020年はコロナウイルスによる影響を受け、オフラインでの院生との交流や研究活動が制限されていました。このような環境でも指導教員にご尽力いただき、無事に修了できました。ゼミ生の卒業研究の調査で猛吹雪の中レンタカーで移動したことが思い出に残っています。

現在は帝国データバンクという企業の信用調査を本業とする会社に勤めています。世間では倒産情報を扱うというイメージが強いと思いますが、長年蓄積された企業情報を活かし、ビジネス支援を推進する会社でもあります。私はマーケティングの業務に携わっています。研究が直接的に関わる仕事ではありませんが、論理的思考力や物事を伝える力は自身の強みになっています。どうすれば自社の商品・サービスを認知してもらえるか、より興味を持ってもらえるか等のマーケティング活動において必要不可欠な強みです。また、将来的に調査業務に携わるうえで、国内外問わず様々な場所で調査をした経験は大きな力になると感じています。

大学院進学は同級生が就職の道を選ぶ中で大きな分岐点です。当時は自身の将来に悩んでいました。進学して進むべき道をじっくり考えられたこと、研究活動を通じてより深い知識を得られたことは、かけがえのない財産です。人生に迷っている方、学び足りない方は是非大学院に進学することをお勧めします。